

2019年度ブラジル短期留学報告書

国際食料情報学部・食料環境経済学科・2年・清水 麗

私が今回、ブラジルへの短期留学に参加したのは高校生の時から興味があったアグロフォレストリーを実際に見ることができるからだ。私がアグロフォレストリーを初めて知ったのは高校の地理の授業である。その時、資料集にはアグロフォレストリーはアマゾンの天然林の保全と育成につながると記されていた。私は将来、農業に携わる仕事に就きたいと思っており、さらにできる限り環境にも配慮していきたいと考えていた。そのため今回のブラジル留学を将来の仕事の選択などに活かせるのではないかと思った。

加えて今まで海外に行った経験がなかったため、学生のうちに日本以外の国に訪れて視野やモノの考え方を広げたいと思った。

まず今回の留学の大まかなスケジュールを以下に示す。前半はサンパウロ大学での講義とキャンパスツアーをしてもらった。後半はベレンのアマゾニア大学での講義を受け、最後にトメアスーでファームステイをした。

実際にブラジルへ留学してみて一番に感じたのはやはり日本との違いである。ブラジルの食事は基本肉食で味付けや調理法が豪快な料理が多かった。食事に対するこだわりは素材を生産する農業に対するこだわりにもつながっているのではないかと思った。ブラジルは広大な土地を有するため農地も大きく、機械での作業で効率を優先していた。特に東山農場ではコーヒー農場が800ヘクタールあり、剪定も機械を使って列ごとにまとめて行われていた。

食事以外の生活面では衛生への配慮や教育がまだ不十分であると感じた。サンパウロの町内だけでなくトメアスーの川岸などでも現地の住民がごみのポイ捨てをしていた。さらにブラジル国内の下水処理は行われておらず、ピラシカバリバーには水銀が混ざっているという話を聞いた。トメアスー文化農業振興協会ではこれらの現状は国民への教育が不十分であると考え、学校での教育を改善していきたいと述べていた。現地でお話を伺った多くの人が日本の教育を高く評価しており、私は学校での掃除の時間が世界的には珍しいことであると気付くことができた。

次にアグロフォレストリーについて学べたことを示す。今回の留学ではサンパウロ、ピラシカバ、ベレン、トメアスーを訪れた。それぞれの地域で気候が異なり、食べ物のおいしさにも著しい違いが見られた。アグロフォレストリーはその中でも田舎にあるトメアスーで見学することができ、町のいたるところでアグロフォレストリーが行われていた。私はアグロフォレストリーに対して林業と農業を同時に行うことで環境に配慮した理想的な農法という認識を持っていた。しかし実際には現地でアグロフォレストリーを行う人々はそのような認識を持っておらず、安定した収入を得られる農法であるために行っているということが分かった。アグロフォレストリーの現状は最初の予想とは異なっていたが、アグロフォレストリーが有効な生業として機能していることは非常に理想的な状態だと思った。実際に農場を見学した際にもカカオ、コショウ、アサイー、ヤシの実などを、時期をずらして栽培し年中収穫物を得られる

ようにしていることが確認できた。今までのアグロフォレストリーの多くは日系人によるものであったが現在は少しずつ現地の農家にも伝承されてきており、ブラジル人の農場も見ることができた。

以下に開発途上国であるブラジルにとっての農業について考えたことを示す。サンパウロ大学でブラジル農業の現状についての講義を受けた。講義では16世紀にブラジルが開拓されてからの農業の歴史と現在のブラジルの農業についてお話を伺った。ブラジルでは砂糖、コーヒーの生産量が非常に多く、その他にはトウモロコシや大豆の生産も行っている。一般的にこれら嗜好品や穀物は国が経済発展をするとともに需要が増加していく。そのためブラジルは開発途上である他の国の経済発展を自国の発展のチャンスとして経済活動を行っているといえる。またブラジルには開拓できる土地がまだ多く残っているため作業の機械化を進め、農地の拡大化が盛んに進んでいる。一方でアマゾンの熱帯林を守る動きもみられるようになってきている。具体的な例としてはアマゾンの開拓を行うときに開拓面積100ヘクタールのうち8割は熱帯林を残さなければいけないことなどがある。また農地の拡大化を行わなくても現行の農法を改善することで生産量を2から3倍に増加させることができることを研究している学者もいる。

以上の状況下で日本を含めた先進国の多くはアマゾンの保護などの環境問題を重視する傾向にある。しかし現地では毎日の生活さえもままならない人がたくさんおり、経済発展が優先されてしまっている。もちろんどの国にも平等に経済発展の機会が与えられるべきであるがアマゾンの熱帯林は世界的に見ても非常に重要な自然であり世界中が協力して守っていく必要があると考える。そのために私たちがまずできることは消費者行動の改善だと思う。日本は輸入品に依存しているが、価格が安いから輸入品を購入するのではなく産地の国の知識を少しでも知ったうえで購買行動につなげていくことが好ましいと思った。私たちが商品を理解して少しでも以前より値段の高い商品を買うことが生産国の支えになっていけばいい。一方でブラジルでは環境や衛生面の教育を充実させていく必要があると思った。アグロフォレストリーに対しても安定した収入源であるという認識だけでなく、環境に与える影響を理解すれば従事者のモチベーション向上にもつながっていくと思う。

今回の留学に参加したのは最初にも述べたように環境に配慮した農法としてアグロフォレストリーから何かを学びたいと思ったからである。実際に見学してみて作物の混合の仕方や成長した木材を有効活用することなどから学べた点はあったと思う。しかしブラジルと日本との自然環境や経済状況が全く異なるため将来の職業に活かせる点は少し少なかったように思う。また留学のスケジュールとして市街地を散策する時間よりもファームステイをする時間をもっと多いほうがいいと思った。残りの学生生活では今回の留学で海外に行くことの耐性ができたので他の国にも行ってみたいと思った。行先としてはヨーロッパやカナダなど環境問題に積極的に取り組んでいる国に行けたらいいと思う。

また日常での生活では自分の消費行動にもっと責任を持つべきだと思った。私はコーヒーやチョコレートが好きで日頃からよく食べていたので今回の留学は行動を見直す良いきっかけになった。特に‘meiji THE Chocolate’は成分表示にカカオの産地を

記しており、良い取り組みだと思った。またその表示から気になり、帰国後に
‘meiji THE Chocolate’のホームページを拝見した。そこにはBEAN to BARと言うキーワードを基にした様々な取り組みが記されていた。明治はカカオの産地でカカオの樹の栽培方法や管理方法の指導を行ったり、井戸や学校の整備、環境に配慮した農法の教育を行ったりしていた。そして支援した産地から輸入したカカオを日本人ならではの繊細さを活かしてチョコレートにしているということだった。これらの取り組みは先進国と開発途上国の貿易のあり方を考える上で非常に理想的であると思った。また以前の私は美味しいからという理由だけで‘meiji THE Chocolate’を購入していた。しかしこれからは値段が少し高いがその理由をしっかりと理解したうえで購入することができると思うと自分自身の消費活動に責任を持つことができると思った。さらに他の商品でも少しずつ知識を持ったうえでの消費活動ができるようにしたい。

最後にこの留学をして日本人学生はもっと日本のことに興味を持って知るべきだと思った。留学をする際には留学先と日本を比較することで様々なことに気付くことができる。特に今回の留学で日系のブラジル人の方とお会いする機会が多く、日本と他国の歴史を学ぶことは非常に重要であると思った。私は日本の農業に携わる仕事に就きたいと思っているが、今回の留学で国外にでることで新しい日本に気付くことができたし、これから日本国内での生活でももっと日本について勉強していきたいと思った。

今回のブラジル留学は当初の目的であった将来の職業の選択肢を見つけることはあまり達成されなかった。しかし、これからの学生生活ですべきことやしてみたいことを多く見つけることができた。残りの学生期間を一日一日無駄にせず大切に過ごしていきたいと思う。今回の留学は自分の中で非常に貴重な経験になったと思う。留学期間中には旅行会社の方々や大学の先生方、農大の卒業生、現地の方にたくさんのサポートをしていただいたり、また留学の機会を親には与えてもらったりしたことに感謝します。3週間の留学を無事に終え、全員が問題なく帰国できてよかったです。ありがとうございました。

持って行ってよかったもの

- ・パーカー(地域や時間での寒暖差が激しい)
- ・ビーサン(ホテル内の移動用・室内でも虫がよくいる)
- ・ビニール袋
- ・小さな衣服干し
- ・ムヒ(虫よけをしても虫には刺される)
- ・ファームステイの料金(留学期間中に別途レアルで支払う必要がある)

用意したがいらなかったもの

- ・パソコン
- ・

現地で使用したお小遣いの金額

2・3万円

次年度以降の参加者へ、事前に準備、勉強しておくべきこと

- ・体力(長時間の移動で疲労が残る)
- ・留学先の国に加え、日本についての知識(国同士を比較でき、留学先でのより多くの気付きがある)
- ・自分が何をしにその国に留学したのか、目的を明確にしておく
- ・ブラジル内での気候や植生の地域差

※今回の留学で飛行機内にパスポートと現金、クレジットカードを忘れてきてしまった学生がいた。飛行機内であっても落とし物が戻ってくることはほぼないため持ち物の管理は十二分に気を付ける。街中ではスリに注意する。日本人は特に狙われやすい立場であることを自覚する必要がある。